



静岡県立大学食品栄養科学部 環境生命科学科の紹介

谷 幸則・河原崎泰昌*・坂田 昌弘・合田 敏尚

静岡県立大学食品栄養科学部では、生命科学の基礎と国際的に通用するコミュニケーション能力を有し、健康に関わる食とそれを支える環境のさまざまな課題について地球規模で取り組むことができる、研究意欲を備えた専門技術者や管理栄養士を養成してきました。このたび、既存の「食品生命科学科」「栄養生命科学科」の2学科に加え、食料生産を支え、安全で快適な環境の創成などについて、総合的な教育・研究を実施するため、2014年度4月より新たに「環境生命科学科」を開設します。この3学科体制によって、食と環境と健康に関する総合的な知識と技術を身につけ、さまざまな問題に挑戦できる人材を育成します。

<学科の特色>

本学科は、食と人の健康に関わる環境を科学する数少ない環境系学科です。他大学では、環境系学科は、その多くが「工・農学系」あるいは「文科系」の学部を設置されています。本学科は、食と健康を視野に入れた研究者、技術者を養成するユニークな理念に基づいて設置されるものです。

<カリキュラムの特徴>

本学科では、環境科学と生命科学を中心に幅広い選択科目を取得でき、学生の興味と関心に応じて能力と知識を伸ばせるカリキュラム構成になっています。また本学科は、実験を通して学ぶことを重要視しています。1年次から4年次まで充実した実験科目を設定し、学生に研究者、技術者としての真の実力を身に着けさせます。1学年定員20名に対し、ほぼ同数の専任教員が在籍し、学生一人一人の能力を伸ばす少人数教育を行います。

<ファカルティメンバー>

本学科は、静岡県立大学環境科学研究所教員（13研究室・23名）により構成されます。環境科学研究所は、これまで大学院学生（博士前期・後期課程）の教育・研究を担当してきました。しかし、多岐にわたる知識が必要な環境の専門家を育成し、「食と健康」などの産業分野で活躍させるには、学部での4年間の基礎教育を加えた一貫教育が必要であると判断し、環境生命科学科を新設して学部学生の教育にあたることにしました。

<育成される人材>

本学科を卒業した学生は、企業や公的研究機関で幅広く活躍できる高度専門職業人・研究者を育成する大学院に進学することにより、より専門的な環境科学を追求することができます。また、①環境コンサルタント業・試験研究機関における環境分析、環境リスク・安全性評価、環境アセスメントの専門家、②食品・医薬品・化粧品などの製造業における環境負荷低減技術の開発、安全性評価、環境分析・食品機能分析の専門家、③公的機関（公務員）における環境保全に関わる行政指導、環境施策の策定の専門家、など、多岐にわたる分野での活躍が期待されます。本学科では、環境計量士、公害防止管理者、放射線取扱主任者、気象予報士などの資格取得に有益な講義内容を用意することにより、在学中に環境関連の資格取得を目指します。

本学部の教員には多くの日本生物工学会会員が在籍し、以上のように本学会の学問領域に関連した教育と研究を行っています。詳細は、ホームページを是非ご覧下さい。（<http://dfns.u-shizuoka-ken.ac.jp>）



環境生命科学科棟外観



水質・環境調査実習（佐鳴湖）



静岡県立大学全景

*著者紹介 静岡県立大学食品栄養科学部（准教授） E-mail: kawarsky@u-shizuoka-ken.ac.jp